

ピアサポート養成研修会

ピアサポートを実装する
ためには
Q&A
グループワーク

目的

- 全国でピアサポートを実装する際に直面している課題を共有し対処法の例を理解する。
- それぞれの地域で
 - ピアサポートを実装する際の課題を共有する
 - 対処法を考える

Q & A

- 2019年全国でピアサポートの実態の聞き取り調査を行った。その際に提出されたQ & Aを提示する。
- 聞き取り調査の対象地区は、埼玉県、三重県、高知県、岩手県、奈良県、鹿児島県、長崎県、山口県、山梨県、熊本県、群馬県、島根県。
- それぞれの地域での課題を抽出し対処法を考える参考となることを期待される。

課題

- 地域でピアサポートを実装する際の課題を共有する。
- 対処法を考える

参考資料

行政と病院との共同体制

Q. 今後行政と病院の共同体制を作るために、病院へのアプローチ方法や具体的な事例は？

A.

- 各自治体の「がん対策推進計画」にピアサポートの支援を明記する。
- 協議会や相談支援部会で議論する。
- 医療者の向けや市民向けの研修会を開催する。
- ピアサポーター研修を医療者に見学してもらう。

ピアサポーターの活動年限

Q. 全国のピアサポーターの年齢層は？

A.

- 60代以上の方が多。がんと診断されてから10年以上経過すると、治療法の進歩もあり話が合わなくなってきたてしまう。
- 海外では7年ぐらをピアサポーターの活動期間の目安としており、さらに続けていきたいという人はピアスペシャリストとして研修を積んで、ピアを支援する側になっていく。

ピアサポーターとがんサロン との関係

Q.がん診療連携拠点病院すべてにがんサロンが配置されているが、そこへのピアサポーターの参加はあまり行われていない。

Q.現在養成後のサポーターの活躍の場はサロンのみ。1対1のピア対応は行っていない。

A.

- サロンとピアサポートを切り離さず、グループサポートという形で携わってもらうのが一般的。

病院内でのピアサポート活動

Q.病院内で活動する以上、ピアサポーターにも、医療者にも責任が発生すると思う。責任が発生するような事案とはどのようなものか？

A.

- 一番気を付けなくてはいけないのは自殺企図など死にたいという発言などがあった場合。何かあったときの緊急の相談先を確保しておくことは大切。
- 病院と協定を結んでいて、何か問題が発生したとき、責任の所在などを明確にしているところもある。

病院内でのピアサポート活動

Q.病院内で活動する以上、ピアサポーターにも、医療者にも責任が発生すると思う。責任が発生するような事案とはどのようなものか？

A.

- ピアサポーターも各病院の一つの医療資源であり、責任を持って活動に取り組んでほしいと明記(明言)してもいいかもしれない。
- 何か問題があったときにピアサポーター全体の信頼低下にもつながることも認識しておくことが大切。

研修会の広報について

Q.できるだけ養成研修会に多く参加してほしいと思っているが、どのような働きかけをしていくべきか？

A.

- まずは病院への周知。現場の医療者に話がいくと、実際に興味を持っている患者さんに話をつないでくれることもある。また、市町村広報誌は年配の方がよく目を通してくださり、周知効果が高かったという事例がある。

研修会の広報について

Q.できるだけ養成研修会に多く参加してほしい
と思っているが、どのような働きかけをしてい
くべきか？

A.

- 病院の中にピアサポーター活動がされていると、
「自分も」という方が続いてくれるはず。ピア
サポーターを見たことがない人がいきなり研修
というのもハードルが高い。「ピアの先輩を見
て」という興味を持ってもらえるとよい。

がんサロンに人が集まらない 参加者が固定化しマンネリ化している

Q.サロンの参加者が固定されていて結束力が高いのだが、少々マンネリしている部分もある。

A.

- どの施設でも起こり得る「マンネリ化」してしまいう問題について、first touchが重要になると思う。HIVでのピアサポートでは告知から半年間サポートを行っていて、後継者の育成にもつながっている。がんでも診断直後にサポートすることができれば、がんサロンに新規に参加してくれるきっかけになると思う。

医療者のピアサポートに対する 認識、質の担保

Q.医療者側からみて、運営していく中で質の担保や、不安を感じることもある。

A.

- 現場の方が感じている不安は、ピアサポートを実施していない部署にいる医療者からするともっと不安を感じてしまう。ピアサポーターも研修を受けていただき、現場が安心して任せられるようになれば、医療者への理解も進むのではないかと思う。

医療者のピアサポートに対する 認識、質の担保

Q.医療者側からみて、運営していく中で質の担保や、不安を感じることもある。

A.

- 医療者の理解が進んで告知の直後に案内できるシステム(「第〇週 何曜日にがんサロンがありますよ、体験者のお話を聞けますよ」というように)が構築できると理想的かと思う。
- 研修も必要だし、サロン内、病院との間でルールをしっかりと決めていくことが大切。院内(医療者)への周知という意味でも大切。

医療者のピアサポートに対する 認識、質の担保

Q.医療者側からみて、運営していく中で質の担保や、不安を感じることもある。

A.

- 会が終わった後に振り返りの時間を設け、サロンでの不適切な対応があった場合ははっきりと注意することも必要である。新しい患者さんに悪い影響を与えないためにも、利用者、ピアサポーターを傷つけないためにも重要なことと考える。

医療者のピアサポートに対する 認識、質の担保

Q.医療者たちはピアサポートをどのように認識しているかわからない。相談支援の必要性を感じていない人さえいる。

A.

- ピアサポートと患者会が混同されている部分があるかとも思う。ピアサポーターの役割として、1つは情緒的な支援、もう1つは情報提供の場を提供するという主に2つのことがある。医療者でもなく、家族でもない立場で支援していると理解をしてもらえると、理解が進むのではないだろうか。

医療者のピアサポートに対する 認識、質の担保

Q.医療者たちはピアサポートをどのように認識しているかわからない。相談支援の必要性を感じていない人さえいる。

A.

- 相談員が行う相談と、ピアサポーターが行う相談の違いについての認識が適切にされていないこともある。そのあたりの理解から深めてもらう必要もあるかもしれない。

医療者のピアサポートに対する 認識、質の担保

Q.各拠点病院病院内サロンでの温度差がある。
それにより、周知、啓発の仕方にも差が出てき
てしまっている。

A.

- 拠点病院の受け入れに温度差が生じる理由として主に2つあり、1つ目はピアサポートに対する誤解、2つ目に人員不足ということがある。
- 人員不足に関しては、地域統括相談支援センターという形をとり、ピアサポーターのマネジメントをそこですべて行うことで各拠点病院の負担を減らすことにつながった自治体がある。

医療者のピアサポートに対する 認識、質の担保

Q.各拠点病院病院内サロンでの温度差がある。
それにより、周知、啓発の仕方にも差が出てき
てしまっている。

A.

- ピアサポートに対して誤解が多くあるかもしれない。相談員と思われがちで、「医療相談をするのではないか」という誤解を持っている医療者もいる。ピアサポーターは医療相談は受けず、あくまで自分の体験の専門家であり、自分の体験を適切に話して、相談者が使えるような情報を提供することに専門性がある。

医療者のピアサポートに対する 認識、質の担保

Q.各拠点病院病院内サロンでの温度差がある。
それにより、周知、啓発の仕方にも差が出てき
てしまっている。

A.

- ピアサポートの役割を医療者に伝えて、少しずつ理解や受け入れをしてもらえればと思う。委託事業で作成したプログラムも、実際に研修を見てもらい誤解を解いてもらうという点に重きを置いた。

修了書

Q.ピアサポーター養成研修の修了証は各都道府県ではどのような名前で発行しているか？

A.

- 県によって、知事名、WGの名前、地域統括相談支援センターの名前で出している等、様々なものがある。
- 研修会を行うときに、研修会の目的、その後の活動について説明し、修了証は資格ではなく、スキルを証明するものでもないということを説明している。

修了書

Q.ピアサポーター養成研修の修了証について。
資格証であるように誤解される方もいて対応が
難しいと感じることがある。

A.

- ピアサポーターに登録後、事例検討会の欠席が続いた場合は、登録を一度凍結し、復帰する際は面談を通して復帰してもらおう、という手続きを行っている自治体もある。
- あらかじめ養成後の活動などを伝えておくことで、誤解を防ぐことにもつながる。

修了書

Q.研修会後に相談活動に従事できる、県があっせんしてくれると認識されている方がいて対応に困っていた。

A.

- 各拠点病院、サロンがそれぞれで研修会等を実施していくのは大変なことだと思う。県で研修会を主催し、修了者にはサロンでの活動を紹介していく形がよいかもかもしれない。

修了書

Q.修了証を知事名で出している。そうすると修了証を持っていないサロンの参加者に対して上から目線になってしまう方もいる。

A.

- 修了証はあくまで修了証で、資格を示すものではないという説明があるといい。相談に来た方の優位になってしまってはピアサポーターの役割ではない。

事業の持続性

Q.行政の担当者が変わってしまうと、取り組み具合が変わってしまったりと、継続が大変と感
じることがある。

A.

- 例えば、地域統括相談支援センターの形で、ピアサポートに関するマネジメントを行う人員が配置されると継続しやすくなるのではないか。そのような人員を配置し、各拠点病院とのやりとり、サポーターの把握をしている県もある。サポーターの質の担保という意味でもうまく運営されている。

地域統括相談支援センター

Q.がん相談員のサポートという立場のがん相談員サポートセンターではあるが、仕事内容のすみ分け等でずれが生じてきている。

A.

- サポーターを養成はするがその後をどうするか、病院とピアサポーターをどうつなぐかという課題は起こりやすい。ピアサポーターをマネジメントする部署を各拠点病院ではなく、行政や地域統括相談支援センターで担っている自治体もある。

地域統括相談支援センター

Q.がん相談員のサポートという立場のがん相談員サポートセンターではあるが、仕事内容のすみ分け等でずれが生じてきている。

A.

- 地域統括相談支援センターは業務内容を明確に限定されておらず、自治体によって役割は様々。一方都道府県の相談支援センターの役割は地域拠点病院への指導を行うという役割がある。

地域統括相談支援センター 予算

Q. 予算の獲得がネックになる。拠点病院のがん相談支援センターと地域統括相談支援センターとで役割がどう違うのか？

A.

- 拠点病院の相談支援センターができないようなサポートを地域統括で行っている自治体が多い。例えば夜間や休日の相談対応は病院だけではなかなかできないので、地域統括で補うようにしている自治体が多い。また、地域統括でピアサポーターの養成、登録、マネジメント、フォローアップを全部行っている自治体もある。

報酬

Q.報酬を支払っている自治体もある??

A.

- 交通費のみの支払い、時給でのお支払いなど自治体によってさまざま。お支払いをすることで、責任を持ってもらう意識づけになると思っている。

がん教育への ピアサポーターの活用

Q.元患者の方にがん教育の講師依頼をしている。あらかじめ話してほしいこと、話してほしくないことを入念に打合せしてから講演してもらっているが、ピアサポート養成研修の受講はがん教育への活用も可能だろうか。

A.

- ピアサポート研修の中に自分の経験を語る準備をするためのプログラムがある。また「医療内容に言及しない」というような守るべきルールについても学ぶことができるので活用は可能であると考える。

自己の体験を語ることについて

Q.がん患者をお招きし、体験を語ってもらったことがある。その中で宗教がかったお話をされた人がいる。ご自身の信念ではあるが「自身の体験」の境界線はどのように定めたらよいのか。

A.

- 宗教、政治、健康食品の話は絶対にダメと禁止している。標準治療以外の科学的根拠のない治療法に関する話もNG。
- ルールで明文化しておくことで、宗教、政治、健康食品の話をしたがる参加者を防ぐことにもつながる。

自己の体験を語ることについて

Q.プログラム内の「自己の経験を語る」はどのようなことを行っているのか。

A.

- 1人1人、時間を定めて自分の体験を語っていただく。トライアル研修会では多くの方は時間切れになってしまい、自己の体験を語る難しさを感じた方も多かった。自己の経験を語る際、感情的になってしまうこともあるが、例えば泣いてしまうことで相談者に不安を与えてしまうことも知っておかなくてはいけない

研修会の負担

Q.遠方からくる人、治療中の人など、研修会の日程・時間が長く負担を感じる人もいるのでは。地域に赴いたり、コンパクトに実施したりすることもありだろうか。継続研修を必須とすると、途中でやめてしまう方もいる。

A.

- 半日を4回に分けて実施するなど工夫は可能かと思う。研修会を行い養成しつつ、その後のマネジメントやメンテナンスも非常に大切になってくる。

研修会の負担

A.

- 養成し、各病院のサロン等に入っていたいただいた後、最後に医療者にも参加してもらおう振り返りの時間を設定するようにすると、ピアサポーターの方の安心につながるかと思う。
- 当委託事業で作成した研修会プログラムは、各都道府県にニーズに合わせてアレンジを加えていいと考えている。しかし研修会だけで質を担保するのはとても難しいので、OJT方式で現場で振り返りなどをしながら育成していくことがとても重要なことと考えている。

がんサロン内での 問題、不適切な対応

Q.質の担保が難しく、ピアサポーターに不適格と思う人は参加をお断りすることも必要か。

A.

- ピアサポーター活動が進んでいる地域では、登録制にして定期的なフォローアップを行うこと、また相談後の振り返りを行っている。振り返りの中で問題があると感じた場合は上に上げて登録の是非について検討する、という形で。
- 振り返りの際は、病院側の管理者にも入ってもらうことが多い。ピアサポーターの燃えつきを防ぐためにも大切なこと。

がんサロン内での 問題、不適切な対応

Q.質の担保が難しく、ピアサポーターに不適格と思う人は参加をお断りすることも必要か。

A.

- 繰り返しになるが、ピアサポーターも各病院の一つの医療資源であり、責任を持って活動に取り組んでほしいと明言・明記してもいいかもしれない。何か問題があったときにピアサポーター全体の信頼の低下にもつながることも。